

## 平和をつくるローカルアクション

2~3面 寄稿・清末愛砂

憲法学者・室蘭工業大学大学院工学研究科教授

2つの戦場から平和を考える

4~6面 YWCAのLAストーリー part 2

7面 新会長メッセージ

The Young Women's  
Christian Association

# YWCA

2

〈第34総会期主題聖句〉

平和を実現する人々は幸いである  
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉

女性がリーダーシップを発揮し、  
人権・平和・環境を大切に社会

〈ミッション〉

若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉

キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

FEBRUARY  
2025

No.784

Since 1905  
120th Anniversary

# THINK GLOBALLY

# ACT LOCALLY

地球規模で考えて、  
今ここからアクション!

# 憲法が示す平和とは 2つの戦場を つなげて考える

憲法学者  
室蘭工業大学大学院工学研究科教授  
清末 愛砂

## 「平和憲法」と 呼ばれる理由

平和運動にかかわっていると、日本国憲法(以後、憲法)のことをあえて「平和憲法」と呼ぶ人々や団体によく出会います。そう呼ばれる主な理由は、憲法で特に①戦争や武力による威嚇、武力行使(宣戦布告などの戦意を示さずに武力を行使する事実上の戦争のこと)を放棄する9条1項と、②戦力の不保持や交戦権の否認を規定する同条2項が定められている点が高く評価されてきたからです。

帝国主義国家であった大日本帝国が引き起こした数々の武力行使(日本では一般に「戦争」と呼ばれる)により、国内外で多大な被害を生み出した歴史的背景に鑑みると、

政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにする

日本国憲法前文一段落

この決意を具体化する9条が規定されていることには、大きな意義があります。

## 最も重要な原理 「基本的人権の尊重」

歴史的文脈から考えると、平和憲法という表現には理があるのですが、私はその意義を理解しつつも、使うことを控えてきました。その理由は、「平和」の意味が狭く使われていると考えてきたからです。平和運動で平和が唱えられるときには、歴史的背景を受けて、究極的な暴力である戦争や武力行使にかかわる問題が存在しないことを指すことが一般的です。しかし、平和と戦争を対置概念と位置付けた上で、憲法の三大原理の一つ「平和主義」が至上の原理であるかのように平和憲法と呼んでいくと、「基本的人権の尊重」が最重要原理であるという視点が抜け落ちてしまつことになりかねません。平和を広い概念で理解しようとするとき

に、基本的人権と平和が密接不可分な関係にあることがより明白になります。

### あらゆる形態の 暴力がないこと

では、憲法は平和をどのように考えているのでしょうか。「平和」という言葉は、前文では4か所、条文では9条1項で使われていますが、具体的な定義はなされていません。しかし、平和を脅かす要素として、前文2段落で「専制」「隷従」「圧迫」「偏狭」「恐怖」「欠乏」という言葉が言及されています。これらは、暴力をふるう主体が特定できる直接的暴力だけでなく、社会に存在する各種の差別や不公平に根差した構造的暴力を表すものです。つまり、禁止規定である9条1項が放棄する戦争や武力による威嚇、武力行使だけでなく、例えば、独裁体制、抑圧や圧迫を生み出す種々の権力関係（公私を問わない）、排外主義、貧困といった人権にかかわる幅広い形態の暴力を

意味しています。憲法が前提とする平和とは、これらが根絶された状況を指すでしょう。

### 「戦争」という戦場と 日常生活にある戦場

現在の日本は、例えば、ウクライナやガザのように武力攻撃による被害者が多数出ている戦場ではありません。しかし、例えば、学校や職場で、あるいは家族のような親密圏で、権力関係に起因するハラスメントやいじめ、DVや児童虐待のようなファミリー・バイオレンスの被害に苦しんでいる人々がいます。これらの人々にとってみれば、日常生活はけっして平和なものではなく、加害者がいる学校や職場、家族は戦場ともいえる場なのです。平和を考えるとときには、こうした2つの戦場があることを認識すると共に、両者に共通するものは何か、いかなる形で結びついているのかといった点を精査することが求められます。

### 平和を脅かすものから 解放される権利

ここまで読むと、平和とは前述のように「状態」を表すものに思えるかもしれませんが。しかし、実は「権利」という側面も持っているのです。憲法前文には、「平和のうちに生存する権利」（平和的生存権）が謳われています。前述の「恐怖」や「欠乏」は、この平和的生存権を構成する鍵となる言葉として言及されているのです。簡単に書くと、これらから解放される権利ということになります。（た



#### profile

きよすえ・あいさ

1972年生まれ。山口県出身。大阪大学大学院助手、同助教、島根大学講師を経て、2011年10月に室蘭工業大学大学院准教授として着任。21年6月から同教授。専門は憲法学（特に平和主義から考える24条の意義）、ジェンダー法学、アフガニスタンのジェンダーに基づく暴力。著書に『平和に生きる権利は国境を超える パレスチナとアフガニスタンにかかわって』（共著、あけび書房、2023年）など多数。

だし、司法は平和的生存権を抽象的権利としてみなす傾向が強いため、違憲訴訟では平和的生存権の侵害がなかなか認定されない。もう一つの特徴は、全世界の人々を対象とする権利とされていること。この点は、前述の2つの戦場の関係性を考える際に、大きな示唆を与えるものとして頭に入れておく必要があるでしょう。なお、平和の権利性に関しては、2016年12月19日に国連総会で採択された「国連平和への権利宣言」1条でも確認されています。

# CAのLA ローカルアクション ストーリー2 part



## 身近なことから人と政治をつなぐ



今日のランチなに食べる？  
 今度の選挙どうする？  
 ～日常の中で政治参加を考える

● 横浜YWCA、Tea + α、ジェンダーカフェ杉並  
 人と政治との距離を近づけるため、社会の出来事や身近なことから興味や関心を広げること、女性や若い世代の政治参加を促す。

### 政治のことを気軽に話したい

世界的な選挙イヤーと言われた2024年。驚きの結果もあり、選挙活動を見直す必要性を感じる場面もありました。一方で、投票や政治について考える機会となった人も多くいたと思います。

私たちのLAの名称には「ランチの話をするように政治のことを気軽に話したい」という思いを込めています。政治は身近な物事とつながっていること、自分の生きづらさが政治と直結していることを参加者と話し合い、一緒に考えてきました。プログラムを通じて新しい人と出会い、新たな扉を開けることに、毎回おもしろさとワクワクを感じています。この感覚を強めているのは、各地域で活動する他団体との協働です。特に静岡県東部を拠点とする女性ネットワーク「Tea + α」とは、当初から一緒にプログラムを実施してきました。その一つが、23年度に行った三島市議会の傍聴です。三島駅の駅前開発が主要



会議はいつも自由闊達。思い思いに意見を出し合った

### 他団体と一緒にだからできること

なトピックだったため、事前に現場を確認後それに関する一般質問を傍聴しました。その後、同団体の協力のもと、議員と市民との報告・意見交換会にも出席できました。他の自治体でどのような課題があり、今何が起きているのかを身近で見ることができ、また私たちの活動拠点である横浜との共通項・相違点を考える貴重な機会となりました。

24年度は杉並区議会を訪れました。ここでは「ジェンダーカフェ杉並」の協力を得て、事前の勉強会から一緒にプログラムを実施しました。杉並区は岸本聡子さんが区長を務め、区議会議員の半数以上が女性です。一般質問の傍聴のため議場に入った際は、紺やグレーの背広だけでない眺めに、文字通り「カラフルだなあ」という印象を受けました。当時改正された共同親権の問題について、事前にカフェのメンバーがある議員へ懸念を投げかけたところ、さっそく一般質問で取り上げられ



杉並区議会の一般質問を傍聴。女性議員が半数以上いる議会の力を実感した

ました。課題に対するスピード感や、区民の代表として活動する議員の姿がよく分かりました。残念ながら、一部の議員による区長や女性議員への悪質な野次も深刻な問題として起こっています。それでも女性が半数以上いる議会の力を肌で感じると共に、市民が自ら送り出した代表を応援し続けることの重要性を感じる機会でもありました。

私たちだけでプログラムに取り組むと、ともすると同じ意見に偏りがちです。しかし企画・立案の段階から他団体と一緒に作り上げることで、新しい視点による方法、意見、情報を得られ、大きな刺激になります。一方、私たちがYWCAが大事にしているセーフスペースや、リーダーシップについての考え方を共有しながら進めています。加えて、今まではYWCAに関わりのなかった人々がプログラムに参加したことも、大きな収穫の一つだと考えています。LAとしての活動は今年度で終了しますが、引き続き共に取り組み、次へつなげていきたいと思います。

横浜YWCA 堀添里緒

YWCAでLAといえば「ローカルアクション」。24の地域YWCAが、地域や団体の枠を越えて協働して展開する社会貢献活動と、それを支援する日本YWCAの事業です。2024年2月号では3つのLAを紹介しました。第二弾となる今号は、こちらのプログラムに注目。それぞれの思い、実施までの歩み、心に響いたエピソードなど活動のストーリーから、LAの魅力に迫ります。



つながる 学ぶ 分かち合う

LA

沖縄と大阪を結んで  
女性の権利とジェンダーの課題を考える

●大阪・沖縄YWCA

地域に根強くある人権・ジェンダーの課題を通して  
沖縄・大阪の女性たちがつながり、共に学び合うこ  
とで、解決の手がかりを探る。

沖縄だけに背負わせていいの？

2022年、沖縄は本土復帰50周年を迎えました。50年前、中間試験の勉強をそっこのけで「沖縄良かったね！」とニュース番組や新聞を見て拍手をしていた私は、とても複雑な気持ちでした。50年を経てもなお、国土面積の0.6%しかない沖縄県内に全国の約70%の米軍基地があり、事故や米軍兵による女性への性暴力が絶えない。県民の所得は全国最下位、さらにコロナ禍が追い打ちをかける。民意を無視して進められる辺野古・高江の基地建設……どれも胸がふさがる思いでした。

大阪YWCAは21年度のピースフェスティバルを沖縄YWCAの協力のもとで行いました。沖縄で米軍基地による汚水問題に取り組み伊礼ゆきさんを講師に迎えて現状を共有。さらに、ドキュメント映像『ていんさぐぬ花 ママたちの沖縄』を観て、PFASから沖縄の水と子どもたちの未来を守ろうと闘



11月に開催された全国会員総会でポスターセッションを行った

うママたちの活動を知りました。翌年には、『海をあげる』の著者・上間陽子さんの講演(日本YWCA主催)を聴き、性風俗にからめとられる若い女性の過酷な実態や、若年妊産婦として生きていく道を選ぶ女性たちを知りました。知れば知るほど、大戦中に沖縄を「捨て石」にしたように、沖縄だけにこの現実を背負わせていいの？ 私たちにできることはないの？ 沖縄の人たちとつながりた  
い！ という思いが強くなりました。

つながりの輪が広がって

ちようど、第三期LAの募集時期と重なり、大阪から沖縄YWCAへ「一緒にやりませんか」とラブコールを送り、このLA企画が実現しました。1年目の23年度は、沖縄と大阪でジェンダー・人権に関する講座を3回ずつ計6回実施。「女性の権利とジェンダーの課題」をベースに「性風俗」「若年妊産婦」「同性婚」「部落差別」「在日韓国人」「滞日外国

人支援」をキーワードにした講座は、どれも意義深いものでした。特に、沖縄キリスト教学院大学の学生2名による講座「沖縄の貧困が若年女性たちに及ぼす影響」は、性風俗で働く女性に聞き取り調査をした結果を踏まえた興味深い発表でした。ほかにも、各回の女性講師たちが生い立ちや生き方、人生観を通して語った「生の声」から学べたことが印象に残っています。

LAと平行して大阪YWCAでは、平和環境グループを中心に『また「沖縄」が戦場になる』ってほんとうですか？』の読書会を開催しました。また、三上智恵監督のドキュメンタリー『戦雲〜いくささむ』のスピノフ会のほか、大阪の女性団体と協働して三上さんの講演会を開くなどの広がりを見せました。24年度は沖縄と大阪でフィールドトリップを行います。沖縄ツアーはこの2月に実施し、辺野古、南部の戦跡、コザの街などを巡ります。大阪ツアーは3月です。労働者の街・西成あいりん地区や生野コリアンタウンなどを訪ねます。大阪はまだ間に合います。あなたもつながりの輪に参加しませんか。

大阪YWCA 辻川さとみ

### [ 大阪フィールドトリップ ]

日程

3月21日(金)～23日(日)

締め切り 3月17日(月)

詳細はこちら

<http://osaka.ywca.or.jp/woman/empower/ep2503.html>



※沖縄ツアーは締め切りしました

### 1 芽生えて広がれ セーフスペース

#### LA 多様な人々が集う居場所づくり

● 京都・横浜・福岡YWCA

居場所事業を行う地域YWCA・他機関と連携し、継続的かつ質の高いセーフスペースのあり方を探り、広く内外に周知し、共有する。

#### より良いあり方を求めて

生きることに直結する「食」を扱う活動は不断の働きが必要とされるため、立ちどまって考える余裕がなくなりがちです。京都YWCAのふれあいの居場所食堂「うららかふえ」でも、日々粉骨砕身する会員の疲弊が顕著になっていました。この課題解決のヒントを探ることは、現場のスタッフのエンパワメントだけでなく、「食のある居場所」としての質の向上につながるかと考えました。それを地域間で共有できるように、就労支援カフェを運営する横浜YWCA、多文化ルーツの子どもの居場所づくりを検討している福岡YWCAと協働するようになりました。

#### 「出会い」の場をつくる

2021年、「食のある居場所」に取り組む全国の仲間との出会いからスタートしました。



京都市内にある多様で多世代な人々が集うカフェ「and happiness」(NPO法人ハビネス)を訪問



福岡YWCA訪問プログラムを終えて。春の味覚「あまおうパフェ」を堪能

9地域YWCAの会員との情報交換会では、実に多彩な活動の形があることが分かりました。各地域の担当者の困難に加えて互いの工夫を聞き合い、思い合う機会をつくることの良さを実感した会でした。

出会うことの大切さを知った私たちは、さらに外部団体を含む相互訪問プログラムを行いました。直に見る・感じる・言葉を交わすことが、こんなにもダイレクトに心に響き、他者との信頼感に影響するとは！訪問を重ね、学びも協働も深まってきました。

多様な背景を持つ人の居場所づくりについて話し合うなかで、「安全」があるからこそ「安心」して過ごせる「居場所」になることが、はつきりと考えてきました。では、安全と安心って？

どんな条件だったらそうなの？ 疑問が次々とわいてきます。それを探る取り組みが「セーフスペース」「当事者との協働」「生きづらさを抱える子ども・若者の理解と関わり」というテーマ別の勉強会と、居場所事業運営者によるシン

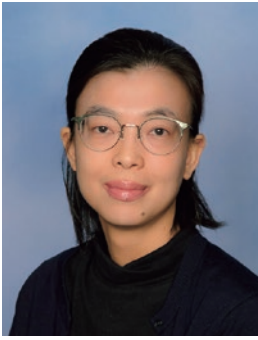
ポジウムでした。

#### YWCAを見つける旅

手探りで歩き始めたLAのゴールは「セーフスペース」でした。「居場所」を包摂的、多角的に見ると、多様で柔軟なものであることが分かります。誰ひとりとして同じ人間が存在しないように、「居場所」も一つひとつの場や関わる人によって違うのです。安全で安心な場をつくるために、共通の基本条件があっても、一つひとつ違うという当たり前のことに気が付きました。これはキリスト教を基盤とするYWCAそのものではありませんか！ 私たちは外部に目を向けながら、「YWCA」を見つける旅をしていたのかもしれませんが。

今、私たちのLAでは、「居場所」に携わるすべての人に向けたガイドブックを制作しています。それは、セーフスペースのアイデアを外部にも提供することで、結果的に社会に生きる多様な人にそれぞれの「居場所」が見つかってほしいと願っていることです。YWCAは、1855年にロンドンで若い女性のための宿泊施設を提供したことに始まります。以来、世界各地で大切に育まれ、受け継がれたセーフスペースの種まき。私たちの活動もその一端になることを期待しています。

京都YWCA「多様な人々が集う居場所づくり」プロジェクト



日本YWCA会長  
樋口 さやか

2007年の夏、大学生のインターンとして「ひろしまを考える旅」に関わって以来、平和を考えるプログラムを中心に取り組んできた。「ひろしまを考える旅」は、日本YWCAが半世紀にわたって

## 日本YWCA新会長メッセージ 力を尽くして 平和をつくり出す

第34回全国会員総会にて日本YWCAの役員・運営委員(半数改選)選挙が行われた。これにより、日本YWCA会長は藤谷佐斗子から樋口さやかに引き継がれた。就任にあたり新会長の想いを聞いた。



ほぼ毎年続けている平和教育プログラムだ。私はこの旅に10年以上関わり、被爆者の方々と出会ってきた。そこで、戦争というものがいかに悲惨なものであるか、と同時に、平和を保ち続けるためには、私たち一人ひとりが不断の努力をしなければならぬことを学んだ。

2025年の今、ガザやウクライナだけでなく世界の各地で戦争の火が絶えず、市民同士の分断がより深刻な問題として現れている。迫害の恐怖に怯え、自分の国・場所から追われている人が、この世界には大勢いる。社会のさまざまな構造変化の中で、その悲惨さは増しているのかもしれない。

第33総会期の4年間は、特に核兵器廃絶を目指すNGOとのネットワークを広げ、これまで以上に幅広い活動を行った。それは同時にYWCAがビジョンに掲げる「平和」を実現することがいかに困難なものであるかを実感する日々でもあった。しかし、平和を築くたゆまぬ努力を続けなければならぬと私は信じている。これから始まる第34総会期の4年間は、平和の実現に向けて、さらに変革を推し進めていきたい。

### 全国会員総会

#### コラム1

#### 光を仰いで、歩み出そう

2024年11月23日〜24日、第34回全国会員総会が東京代々木のオリンピックセンターにて対面とオンラインによるハイブリッドで開催された。藤谷佐斗子会長(写真)による開会では共に『光を仰げや』を歌い、心を合わせた。1日目の議事では、この4年間の活動を振り返った。協議の時間には第34総会期に向けて日本YWCA運営委員会から会員活動の展望、理事会からは新規事業の構想等について発題がなされた。2日目の議事においては、「ウェブ会員」の追加に伴う会則改正案が可決された。新



制度の本格的な運用は新運営委員会に委ねられる。また、33総会期の主題聖句・ビジョン・ミッション・バリュー(表紙右上)は、34総会期も継続されることとなった。『Wonderful Women』賞贈呈式では、受賞者代表の石井摩耶子さん、熊江雅子さんから若い世代に向けて力強いエールをいただいた。第34総会期を歩むにあたり、日本YWCA会長・副会長・書記、そして運営委員(半数改選5名)の選挙が行われ、結果、いずれも信任され、候補者選考委員が承認された。光を仰ぎつつ、この4年間の旅路の新たな歩みを進めていきたい。

日本YWCA書記 吉田 亜希



全国会員総会  
コラム2

顔を合わせて、  
和気あいあい！

8年ぶりに対面で開催された総会は、私にとってまさに「セーフスペース」だった。人見知りもあり最初は少し緊張していたものの、会場に入ってから物販コーナーを見た途端に8年の空白が埋まった。そこにはいつものように会員の手作りジャムやお菓子、平和活動や支援のためのグッズ。その横にはLAの活動を紹介するパネル。それだけでYWCAを感じることができてほっとした。



「セーフスペースの作り方」  
「ワールドカフェ（テーマごとのテーブルに分かれてディスカッション）」、「からみつくジェンダー」とわたしたちの各ラウンドでは全国の会員と交流できたことがとても新鮮で刺激になったほか、日ごろ自分が思っていることと同じような考えを持つ人がいることに安心した。特にワールドカフェのような和気あいあいとした雰囲気は対面ならでは！夕食&交流会では食卓を囲んで大いに語り合った。いつもは遠く離れた地域で異なるイシューに取り組んでいることも、常につながっていることを強く感じた。ここで出会った仲間、まだ見ぬ仲間との出会いを楽しみに、新しい総会期を共に歩みたい。  
福岡YWCA 岡野亜紀子

ご協力ありがとうございます

賛助費

- 赤石めぐみ 秋元靖子 浅田啓 浅原由美 荒川知子 五十嵐和子 市川恵美 市川真美恵 内山佳子 江崎啓子 江尻美穂子 笈川光郎 大里喜美子 織田光恵 河崎純子 河内常男 川村悦子 木田みな子 木本洋 桐村巨子 桑原貴子 小泉陽子 小谷充子 小林喜美子 小宮一子 小谷野淳子 近藤眞由美 齋藤知子 齋藤喜子 海老名百合子 篠山淳子 佐藤清子 汐崎貞子 杉野孝子 設楽順子 篠原洋子 杉野孝子 須部道子 大工原則子 高木博己 武内富貴代 竹田とし子 田中展子 田中美紗子 辻井夏子 土屋幸子 富沢寿美子 中尾貢三子 中平多恵子 仁木三智子 野崎誠一郎 野澤節子 畑山みさ子 八村悠紀子 馬場元毅 原田裕子 比企敬子 一杉静子 平石あつ子 藤井初子 益田明美 松岡信子 松山恭子 三宅純子 宮澤玲子 村松武司 森山和子 山本貴美子 吉岡郁子 吉田曉美 吉野恵子 依田良子 淀川敬子 日本バプテスト同盟彰並中教会 日本基督教団田園調布教会 シオン会 匿名

ピースメーカーズ募金

(平和を創り出す女性のリーダーシップ養成)

- 秋元靖子 板橋幸子 市川真美恵 犬伏邦明 岩城紀代子 内山康一 宇都宮芳子 江崎啓子 遠藤恵美子 大澤恵美子 岡田淳子 小川眞理絵 織田光恵 折戸義夫 柏木妙子 嘉屋陽子 河崎純子 木田みな子 木本洋 桑みち代 小西明美 小宮一子 小村明子 小谷野淳子 齋藤喜子 佐藤清子 佐藤マリ子 設楽順子 関賢一 高橋礼子 竹田とし子 田中京子 辻井夏子 鶴崎祥子 手島千景 中尾貢三子 中西トク子 中村みゆき 難波幸矢 仁木三智子 野崎誠一郎 原紀子 原田裕子 原田由美子 藤井初子 古川道子 堀内洋子 益田明美 松田和子 松山恭子 実生律子 宮本久子 八木高子 山内明子 山岡清二 山本貴美子 山本容子 吉田亜希 株式会社フレックスインターナショナル 日本基督教団久ヶ原教会 日本バプテスト女性連合

日本福音ルーテル小石川教会 婦人会 学校法人女子学院 日ノ本学園高等学校 NPO法人熊本YWCA 匿名

災害時支援募金

(国内外の災害被災者支援)

- 日本キリスト改革派東京忍龍教会 執事会 公益財団法人福岡YWCA

オリーブの木キャンペーン募金

- 秋元靖子 市川真美恵 上村愈巳子 宇都宮芳子 江崎啓子 榎本みつ枝 小川眞理絵 柏木妙子 川上哲 河崎純子 桑みち代 栗山義久 桑原貴子 神門佐千子 小村明子 小谷野淳子 齋藤喜子 坂和優 佐藤清子 佐藤マリ子 菅野真知子 関賢一 竹田とし子 田林純紀 手島千景 友田シズエ 中尾貢三子 中山美知子 野崎斐子 服部さち 松山恭子 久宗百合子 中尾貢三子 林山恭子 宮田ゆう子 山本貴美子 山本容子 善沢志麻 依田良子 和田博子 渡辺美智子 日本バプテスト同盟彰並中教会 NPO法人熊本YWCA (ウクライナ支援)

パレスチナYWCA支援

(パレスチナYWCA支援)

- 犬伏邦明 上野學 嘉屋陽子 鶴崎祥子 実生律子 若松京子 公益財団法人東京YWCA

ビルマ/ミャンマー支援募金

- 犬伏邦明 ウィリアムス郁子 遠藤真理 金子直衛 吉良保子 郡山幸江 坂本恵子 佐々木あとも 沢田修 四宮順子 杉山節子 関むつみ 田辺いづみ 長谷川昌美 比留川久二枝 伏島幸子 松田和子 渡辺幸子

東日本大震災被災者支援募金

- 犬伏邦明 小谷野淳子 一杉静子 日本基督教団市川三本松教会 東洋英和女学院同窓会

(2024年10月16日〜12月15日)

敬称略